スペシャル
企画特集

支援機構企画リーダー座談会

特集概要

支援機構の企画ってどんなことをやっているの？企画のリーダーってどんな感じ？今回はその疑問にお答えすべく、2021年度に行われた支援機構の企画のリーダーに集まってもらって、座談会を行いました。各企画の魅力やリーダーならではの苦労、これからの支援機構についてなど、ここでしか聞けないことが沢山！あなたも、支援機構の企画の魅力を知ってみよう！

Q1 自己紹介をお願いします！

井筒 莉寛さん（以下「り」）：
「新入生歓迎・履修相談会 2021」という企画のリーダーをしていました。新入生歓迎会は、新入生が他の新入生や上回生と交流するための企画で、履修相談会は、初めての履修登録を上回生がサポートしていく企画です。

姉川 光さん（以下「姉」）：
担当企画は、「春の市大授業　学生によるフリートーク」といって、教員による市大授業と合わせて行われる企画です。今年はZoom で、教員による模擬授業が終わった後に、主に高校生の参加者とフリートークをしました。

谷口 太一さん（以下「太」）：
担当した企画は「オープンキャンパス学生企画 2021」です。文学部のオープンキャンパスに来る参加者や保護者、高校の先生などに対して市大の情報を色々発信し、その中で自分たちも市大の魅力を再発見していくという企画です。今年は特設 web サイトの作成や、Zoom で個別の質問対応、グループトークをしました。

津幡 百音さん（以下「も」）：
「文学部案内冊子 2022」を担当しました。概要としては、コース紹介とか、学生生活、支援機構などについても紹介する案内冊子の編集になります。こちらについては冊子体で発行するものと、ホームページで公開するものとに分かれています。

米川 明音さん（以下「米」）：
担当したのは「学生による夏のコースガイダンス 2021」という企画です。コース選択を控えた1回生向けに、先輩からのトークやプレゼンを通して、より良いコース選択の後押しをする企画になっています。当日は Zoom で開催し、そのアーカイブを WebClass で公開しました。

辻野 けんま先生（以下「辻」）：
今年支援機構会長をしております。コロナ禍 2 年目に突入した 2021 年度の企画はどうだったのかというのには興味があって、参加させてもらっています。

井筒 莉寛さん（りお）

姉川 光さん（姉さん）

Q2 担当企画ならではの特徴は？

姉：新入生が入ってすぐに募集が始まるので、1 回生が初めてスタッフとして携わる機会となるのが特徴です。参加者にとっては、大学の授業と学生の雰囲気を 1 日で知ることが出来る企画です。規模としては小さく、企画制作を短期間で経験できる特徴があります。

太：外部向けの企画だということは市大授業と重なりますが、高校生や保護者が対象になってくると、他の企画に比べて気を引くのが難しいと思います。その分、コンテンツの質などを充実させることで、例年沢山の方に来ていただいています。

り：僕も入学直後の新入生を対象にしている点が 1 番の特徴かなと思っています。初めて文学部生として企画に参加することになるので、支援機構の印象にも関わってくるのかなと思いますし。あと、準備期間が約半年とすごく長いという特徴があると思います。ゆっくりできることばかりではないので、そこの調整が難しいですね。

米：先生方によるコースガイダンスもあるので、それに対して学生目線であるという点が意識されている企画だと思います。あとは様々なコースから当日スタッフさんに来ていただくので、当日揃った時にバラエティ豊かだなという印象はありますね。

も：全体的に特殊な企画かなと思います。そもそも企画当日が無いですし、編集とかデザインとかを中心にやるところが 1 番大きな違いです。あとは、スタッフ募集も 3 月と 4 月の 2 回あって、更にサポートスタッフもいて、色んな形で参加できます。

Q3 支援機構に携わるようになったきっかけは？

米：私は 1 回生の時の文学部案内冊子企画が最初です。元々大学では何か企画みたいなことはやりたいと思っていたのと、デザインにも興味があったので、LG（※）良いなと思い参加しました。あとは、コロナ禍で完全に大学に行けず、文学部の方々と何かしら関係を作りたいというのが大きかったです。
※文学部案内冊子（Literature Guide）企画の省略名のこと

姉：自分も同時期に LG に参加してます。きっかけとしては、春の履修相談会の動画のおかげで履修を組めたっていうのがあって、自分も同じようにやりたいと思って。それで、同じ支援機構の企画である LG 企画に参加してみようと思いました。

太：僕は履修相談会の時に、すごく良くしていただいた先輩がいて、支援機構って面白くて良い団体なのかなと思って。それからしばらくしてオープンキャンパス企画があったんですが、スタッフ募集メールにその人の名前があって、「この人とだったら一緒に企画スタッフとしてやれるな」と思って応募してから支援機構に関わり始めました。

も：私は新歓キャンプに参加した時に先輩に良くしていただいたことで、自分もこんなことしたいって思って。話すのがすごい苦手なので、編集なら最初に出来るかなと思って LG に応募した感じですね。

り：僕は高校生の時にやっていた生徒会活動と同じようなことをしようと考えていました。その時に春の市大授業のスタッフ募集がかかっていたので、それに応募したのがきっかけです。

Q4 リーダーとスタッフの違いや、リーダーになって良かったこと・大変だったことは？

も：リーダーは先生方や事務さん、取材を受けてくださる方などとメール対応することが多いので、そこで多くの人に支えられていたことを実感できました。その裏返しで調整役が多いのが大変だったんですが、それはそれで楽しいし、色んな仕事ができたなと思います。

り：やっぱり全体のスケジュール管理は一番大変ですね。元々そこまでスケジュール管理が得意な方ではなかったんですけど、リーダーになって、1 か月 2 か月 3 か月先のことを考えた調整を初めてしたので大変でした。

姉：自分はメール関係が本当に大変で、迷惑メールに振り分けられてるかもとずっと見直したりしてて。あと新入生が企画に携わってから 2、3 週間で企画当日となるので、その辺のバランスも見つつ調整するのが大変でした。

米：私もやっぱり全体を見るっていうのが結構大変かなと。これまでは自分のタスクで手いっぱいみたいな感じだったのが、リーダーになると他にも目を向けることが必要なので、そこが大変でした。

太：僕はあまり違いはなかったと思います。っていうのも、個人的な方針で、僕がいなくても成り立つ企画を作りたいと思っていて。もちろんスケジュール管理や外部との連絡はしなきゃいけなくなりましたが、それ以外のことは任せるかたちを取ったので、そんなに変化はなかったというのが正直なところです。

谷口 太一さん（太一）

津幡 百音さん（もも）

Q5 リーダーになったことで身に付いた力は？

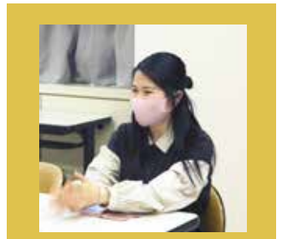
り：先ほど言ったスケジューリング力もそうですし、いろんな人と連絡を取るので、伝える力が身についたと思います。

太：色々と勉強になったんですが、一言で言うと中庸をとる力ですかね…。例えば対面かオンラインかという話の時に、オンラインだからといって規模を縮小する必要はないし、むしろ対面の時の労力が別のところに割けるのでオンラインでしようか、みたいなかたちで中庸をとるというか。まあ、オープンキャンパスって先生たちとの交渉や新大学についての情報などセンシティブな部分もあって、その中でやるのは大変でした。

も：私たちの企画も、情報収集に関しては学生側が基本知らないことも見せないといけない部分もありますし、他にも取材をたくさんやるので、その辺の調整も行いました。メールもそうですし、どう話せばいいのかというのを学んだのが共通するところだと思います。あとはそれも含めて、周りを見る力が少しずつ育ったなと思っていて。できるだけ周りに仕事を割り振れるよう意識しました。

米：そもそも自分の場合はコースガイダンス企画もリーダーも初めてで。それまでは人に頼ることが苦手だったんですけど、もう頼るしかなくて。なので、リーダー経験者の方にお話をきいたり、分からんことはすぐ誰かに連絡や相談をしたりといった感じで、人を頼る力というか、そういう意味での積極性が身につきました。

姉：スタッフの時は基本的に自分の意見を言うだけだったのが、リーダーになるとそれぞれの意見を拾って軌道修正することが必要で、そういう力が身につきましたね。
あと企画当日、ミスがあった時にいろんな人から助け舟を出してもらって対応したところがあり、人に助けてもらうことの大切さを再確認できました。


米川 明音さん（よねちゃん）

辻野 けんま先生

Q6 これからの支援機構にどうなってほしい？どうしていきたい？

太：正直なこと言うと、支援機構の企画に関わる人数がだんだん減少していってて。そんな現状を打破するための手立てを考えていかないとと感じています。

も：編集系の企画って引き継がないといけないことが多いのですが、それが対面でできないのもあって今全くできていない。そのうえ人数少ない中で引き継がないといけなくて怖いなっていうのが、共通の課題だと思います。

り：この先対面の企画に戻っていくなら、オンラインには無い細かなタスクが出てくると思うんですけど、それについて皆初めて対応することになるのを懸念しています。僕も対面企画のリーダーやったわけじゃないので、そこを引き継げないですし…。

太：そういうことしてたのは俺らが 1 回生の頃やもんね。本当に細かいノウハウは伝授できてない。ゼロベースで考えてもいいと思うんですけど、そういうところを伝えていきたいです。

り：小会議室（※）に何あるかっていうのは皆知らないし。
※支援機構が企画で会議などに利用する部屋のこと

米：小会議室の場所知らない人が多いので、まずどこですか？からですね。

そういう意味ではここの 2 回生 2 人は企画スタッフを始めたとき初回ミーティングが既にオンラインで、逆に今対面に戻ってきている状態と。

米：対面でどう質問したらいいか皆探り探りな感じがしてます。

姉：対面で会った方が明らかに喋りやすいので、できれば対面に戻したいと思ってるんですけど。また、リーダーが出にくいっていうことを運営委員（※）として募集してる時に思ってて。その辺はどうなるのかなとは思ってます。よねさんはリーダー出るとき迷ってた感じやんな？
※支援機構の活動において学生・教員間の連携を行なう委員のことです。

米：うん。コースガイダンスはスタッフとしてやろうと思ってたけど、リーダー募集を延長してますと。企画が無いのは困ると思って、かなり迷った部分ではあったかな。いきなりやると周りも自分も不安だし、ちょっと渋ってた感じです。

辻野先生はいかがですか？

辻：コロナの影響が大きく、去年は特に教員も学生も未知のところを切り拓いてきた 1 年間だったのかなと。また今年は、ポストコロナのことを見据えて、失われた対面企画のノウハウをどう築くのかを検討するのが難しいことかと感じます。
後は、学生さんの側から教員と交渉することは普段であっても難しいと思います。支援機構の皆さんを見ていると、そうした経験を経て、一般の大学生がまずしないことをされているのがすごいことだと感じています。自発的に読書会をされたり、議論が洗練されたりと、支援機構での経験が非常に大きな影響を与えている気がしました。

Q7 最後に一言お願いします！

太：一度でいいので、気負わず参加してみてください。あなたの一言が、未来の文学部・文学研究科を彩ります。

も：「何か」やり遂げたい。そう思ったことないですか？ そんな人は、ぜひ企画に飛び込んできてください！

姉：学内・学外向け問わず様々な企画を制作・開催しておりますので、ぜひご参加ください〜！

り：自分たちが『やりたい！』と思えることをやって欲しいです。

米：自分なりのやりがいや楽しみ方を見つけて頑張ってください！良い経験と出会いが得られるよう祈ってます！

皆様ありがとうございました！